



8月12日精靈迎え



示寂のとき
秋彼岸も終わり凌ぎやすい時節となりました。

法縁各位におかれましてはご清祥にて日々ご精進の事と拝察致します。日頃より当山の護持運営に対し格段のご厚情を賜り誠に有り難うございます。

さて、東日本大震災から数えて5回目の秋を迎えました。塩釜の復興は震災前からの産業衰退もあり、その歩みが遅々として進まぬように感じますが、塩釜には歴史や松島と連なる豊かな景観など一朝一夕には手に入らぬ宝があるのでしたら、塩釜に住もう者として先ず自らがこの町を愛しその価値を見つめ直すことがまず肝要かと存じます。

話は変わりますが、平成6年に遷化した先住職精道和尚は早くも来年23回忌を迎えます。玉免速やかなことに驚くばかりであります。27歳だった小衲も49歳になつてしましました。寺門では23回忌に限らず先住の命日は先住忌という法要を厳修します。通常は大悲咒という経を読み、この読経の功德を先住に回らす回向と呼ばれる一文を唱えます。僧侶に対する回向と檀家の皆さんとの回向文は大きいに異なるのですが、なかでも最も大きな違

いは僧侶に対する回向では一周忌とか23回忌という年回忌の年数を入れぬことです。在家人のお勤めでは「〇〇回忌の辰に値うて」と言いますね。通常、僧侶の年忌法要では50回忌以前は「示寂の辰」という言葉を使います。せっかく年忌法要をするのに〇〇年と読まないのです。示寂とは「仏、菩薩、僧の死」の意。つまり僧侶の年忌法要では「今月〇日、〇〇和尚が死去した日に」と言つて回向するのです。まつたくの私見ですが、これは師匠の逝去したその日の心に立ち返つて、師匠の恩を感じ、自らの心や生活を反省するという意義があるのではと考えています。私達は大切な方を喪つたときに本当の意味で真摯に生死に向かい合うことが出来ます。故人に対しても様々な小事を忘却して対峙することが出来ます。

これは師匠や親を亡くした方ならきっと同感して頂けるのではないかでしょうか。人間というものは良くも悪くも変化してゆくものです。数年に一度、その自然の変化を故人に照らして自省することが無益なわけがありません。かような意味において、実際に葬儀や年忌法要というものは故人の死という教えに接し、自己を振り返る機会と日々を真剣に歩むきっかけを与えてくれるものなのです。

ハワイ新亡供養、盆踊り

8月20日～25日、数年ぶりにハワイ・マウイ島・開教院の新亡供養の加担に参りました。沖縄移民の方々の寺院である開教院は毎週のように行われる各宗派寺院の盆踊りの中でも、本格的な琉球舞踊と沖縄の食べ物が提供される貴重な機会とあって毎年多くの参加者が訪れます。今回も広い境内いっぱいの方々が沖縄文



境内に溢れる人！

新亡供養

化を楽しんでいました。

また、開教院の盆踊りは米国本土やオアフ島で暮らす開教院メンバー子息が里帰りの日もあります。開教院関係者の子息の中には昔東園寺主催でおこなつていた精道和尚メモリアル・ホームステイに参加し、塩釜周辺で過ごした方も多く、小衲にとつては懐かしい顔との再会の機会に恵まれました。

承周老師一周忌報恩接心

去る7月、昨年107歳の長壽を全うして遷化されたロサンゼルス臨済寺開山佐々木承周老師の一周年忌に際して厳修された接心（坐禪会）と一周忌法要に加担して参りました。一周忌に際して5日間とは言え接心を行うという事は日本の僧堂にも見られぬ善行。小衲はスケジュールの都合で後半3日のみの参加でしたが、携帯電話も通じぬような山奥のマウントバルディ禅センターでの坐禪は素晴らしい体验となりました。申し遅れましたが、今回の接心は妙心寺山内靈雲院の曇華室老師、そして承周老師の受業寺であった札幌瑞龍寺の現住職起龍軒老師のご指導

のもと行われました。一周忌は宿忌（一般でいう逮夜）の焼香師を起龍軒老師、半齋の焼香師に曇華室老師に迎えて厳修されました。法要を司る諸役位はすべて承周老師の弟子。かような法要是初めての事であり、一から作法を伝えるのは容易では無いと教える側である小衲は思つておりましたが、皆飲み込みが早く、意外に上手く法要を當むことが出来ました。法要の晩、小衲はくたくたですぐに就寝しましたが、弟子達は徹宵（一晩中）で坐禪をしていました。この辺は承周老師の50年以上にわたる指導の成果なのでしょう。日本では考えられぬ事です…。



焼香師 曙華室老師
札幌瑞龍寺起龍軒老師、妙心寺派総務部長
上沼雅龍師

末筆となりましたが、承周老師一門の僧侶の方々には老師の教えを護持し、今後も修行専一に精進されることを念願します。師匠の年忌に当たり只管に坐禅をなすような気風が日本の禪門にも勃興することを密かに期待します。

戦後70年～様々な供養

今年は戦後70年。安保法制や諸外国で行われた周年行事とも相俟つて太平洋戦争や和平について語られることが多い終戦の日がありました。去る7月30日、

月見ヶ丘霊園に建立されている戦没者慰靈塔の修繕報告会が塩竈市遺族会により厳修されました。この慰靈碑は東日本大震災の影響により修繕が必要な状態となつておりましたが、今回戦後70年に際し、立派に修繕がなされました。この事業には東園寺責任役員でもある阿部久寿氏が修繕協力者を得るために多大な尽力をなされました。当山にもお声掛けを頂戴致しましたので、微力ながら戦没者慰靈の為に協力をさせて頂きました。当日は塩竈神社の方々の儀礼に統いて、同じく修繕に協力した市内寺院が読経し、国



さて、終戦の日である8月15日は例年通り戦死戦病没者の供養及び世界平和祈願を厳修致しました。仏教の供養は怨親平等と言つて、邦人犠牲者のみならず、敵味方無しに戦死戦病没者に対し祈りを捧げるというものです。もともとは小衲が個人的に始めたお勤めですが、毎年少人数ではありますがお参りしてくださる檀信徒がおられます。今年は例年よりも少しだけ参拝者が増えましたので、比較的読みやすい経を用いて共に読経致しました。

この秋には境内の一角に「怨親平等塔」を建立し、すべての戦争犠牲者の御靈の安寧を祈ると共に戦争の無い平和な世界となるよう祈願致したいと思います。

地蔵流し法要

去る九月二日、塩釜連合寺院主催の地蔵流し法要が厳修されました。参加者減少や参加者安全確保の諸事情から本年は壱番館遊ホールを会場とし、法要と仏教文化講演会の二本立ての開催となりました。第一回の講演会は瑞巖寺住職起雲軒老大師をお迎えし「雲門屎概」という演



題で法話を頂戴しました。なかなか難し

い内容でしたが、「何故?」と考えること

で人間の脳は活性化します。法要で心を落

ち着け、頭を「ハテナ?」にすることにより、参加者の方々は大いに健康を増進された事と存じます。

来年も本年同様、壱番館での法要となる予定では是非多くの方にご参加頂ければ幸甚と存じます。

賢に逢うて学ばざれば去りて後ち悔ゆ。

義を見て為ざれば過ぎて後ち悔ゆ。

危を見て遠ざからざれば陥りて後ち悔ゆ。

寺庫紹介

雲居禪師「十悔章」

賢に逢うて学ばざれば去りて後ち悔ゆ。

(訓読)

次ぎに雲居禪師の後裔でもある大領禪師の十悔章を紹介します。

少年に勤めざれば、老いて後ち悔ゆ。

壯年に仕えざれば患いて後ち悔ゆ。

主に事えて忠ならざれば退いて後ち悔ゆ。
親に事えて孝ならざれば喪いて後ち悔ゆ。
財を得て散ぜざれば失いて後ち悔ゆ。

因果を得て仁ならざれば乱れて後ち悔ゆ。

菩提を得て仁ならざれば死ぬる時悔ゆ。

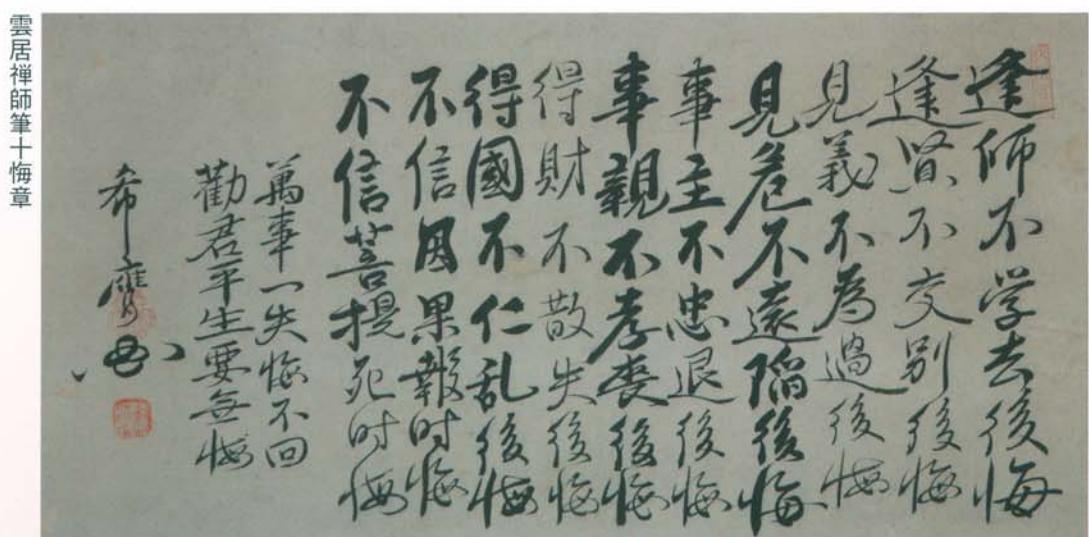
萬事一たび失えざれば報いし時悔ゆ。

君に勧む平生要らず悔い無からんことを。

希膺(花押)

この墨跡は「雲居国師十悔章」として周知された一文で、雲居禪師自筆の貴重な作品です。

通常、雲居禪師の作とされる十悔章は、儒教の立場から主人や親に仕える事を勧め、仏教的な視点から因果を信じて身を正し、菩提(悟り)を信じてこれに精進し、後に悔いの無いよう生きることを進言しており、江戸時代の精神文化を示す好資料と言えます。



師に逢い学ばざれば、去りて後ち悔ゆ。

賢に事えて交わらざれば、別れて後ち悔ゆ。

親に事えて孝ならざれば、喪いて後ち悔ゆ。

主に事えて忠ならざれば、退いて後ち悔ゆ。

義を見て為さざれば、過ぎて後ち悔ゆ。

危を見て遠ざからざれば、陥ちて後ち悔ゆ。

財を得て散せざれば、空のうて後ち悔ゆ。

国を得て治ざれば、乱れて後ち悔ゆ。

因果を信せざれば、招きしどき悔ゆ。

菩提を信せざれば、死しどき悔ゆ。

萬事、一たび失えば、悔ゆとも回らず。

君に勧む、平生要す悔い無からんことを。

雲居膺禪師の述 后裔義猷書す

雲居禪師の十悔章には数点の自筆資料がありますが、禪師がその都度、脳裏に浮かんだ文章をお書きになつたせいか内容が一定ではありません。雲居禪師の十悔章は過去に『雲居和尚墨跡集』(昭和60年発行 瑞巖寺)、『妙心寺展(図録)』(平成21年東京国立博物館)等に紹介されています。何れも訓戒される内容に大差はありませんが、表現がそれぞれ若干異なっています。大領禪師の墨跡は「雲居膺禪師の述 后裔義猷書す」と署名されており、雲居禪師の十悔章を書写したものに

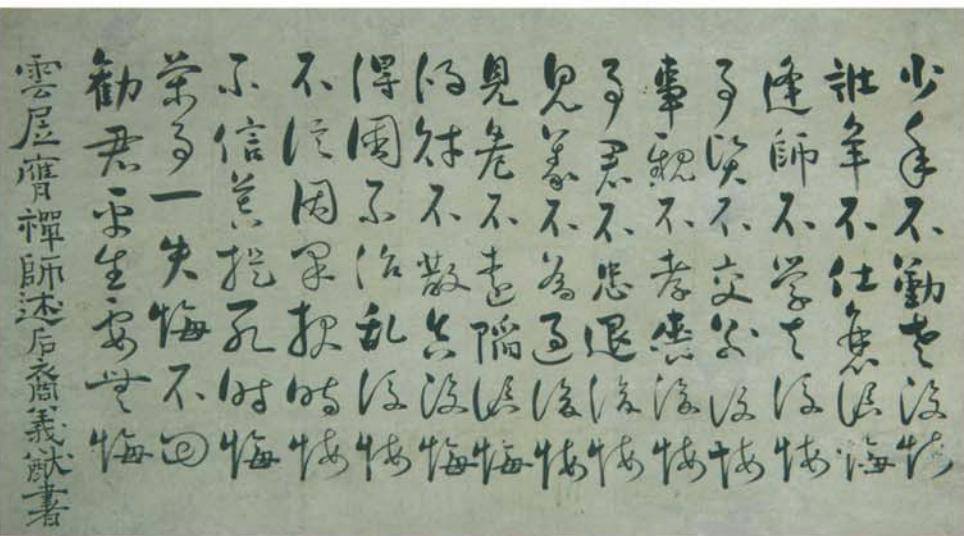
は間違い無いものの、訓戒が2項目多く、十二悔章となっています。

【雲居希膺禪師】(1582—1659)

瑞巒寺中興開山。土佐の人ではあるが、諸々の縁により伊予国上三谷に生まれる。土佐一條家の重臣小浜左京の子。9歳にして中村宇山(高知県中村市)の太平寺に預けられ小僧となる。15歳師匠真西堂に伴い上洛。東福寺内の永明院を経て、妙心寺蟠桃院一亩禪師に師事し、その法を嗣ぐ。寛永13年仙台二代藩主忠宗公の度重なる懇請を受け来松し、瑞巒寺99世となる。雲居禪師は瑞巒寺住職という立場にあつても、生涯深山幽谷を供として修行行脚をされた方であり、衆生済度の為に多数の墨蹟を残している。

【大領義猷禪師】(1630—1690)

大領禪師は黒川郡吉田村の出身、伊達家の飛び領地である滋賀県石馬寺の住職を経て、瑞巒寺102世住持就任。世寿61。黒川郡大和町禪興寺開山。大領禪師の法を嗣いだ弟子は定嶽東慧禪師、寂隱慧中禪師の二人。この内、定嶽禪師の法が、



幼稚園だより

塩釜中央幼稚園・塩釜第二中央幼稚園



湖畔公園へ遠足（中央）



いも畑の観察（中央）



花祭り子供大会（中央）



サッカー教室（中央）



避難訓練（中央）





書道教室（中央）



不動堂子供祭り（中央）



運動会（第二）



英語教室（第二）



美味しい給食（第二）



お茶のお稽古（第二）



盆踊り（第二）



体育教室（第二）



水泳教室（第二）

成道会 仏教文化講演会

12月13日午後5時

講演「四代藩主伊達綱村公の母宛の手紙」(仮題)

講師 東海林恒英先生(元仙台市博物館館長)
数多くの伊達家関係文書に接して来られた東

海林恒英先生に、伊達綱村公が生母政岡に宛てた書簡をご解説頂き、綱村公のお人柄や事績を

学びます。

会費2000円(役員、法話会会員)
3000円(一般)

講演会後、懇親会を行います。お席の準備の都合上、出席の方は12月5日(土)までお申込み下さい。



東園寺・寺宝展

恒例の東園寺・寺宝展を開催します。当山所蔵の墨跡や書画をご覧頂く年に一度の機会です。是非ご来山ください。

日時 12月13日(日)午前9時~午後5時
午後は住職が随時作品解説を致します。

テーマ「だるま西特集~描かれた禅宗初祖」「伊達家と塩竈」

場所 東園寺中書院及び教化センター

(本堂地階)



雲居禪師着贊達磨図

塩竈松島絵図屏風(部分)

除夜法要~除夜の鐘
12月31日午後11時30分頃より

2月中頃 涅槃会コンサート
「涅槃団に描かれる精神」講師 当山住職

坐禅会

毎週 日曜日 朝7時

東園寺本堂地下
教化センターにて



THE ZEN CLUB K&B GYM

東園寺研修センター内にあるスポーツクラブです。東園寺檀信徒は入会金が免除になります。

お問合せ

利府町加瀬宇野中沢90-1
022-356-7071

宗教法人 東園寺 〒985-0026 塩釜市旭町4-1
学校法人 東園寺学園 〒985-0012 塩釜市芦畔町13-51
代表役員 千坂成也 理事長 千坂秀也 花園会・会長 津田武彦

022(362)0777:寺務所
022(362)8651:中央幼稚園
022(365)5616:第二中央幼稚園
022(364)4444:寺FAX

東園寺ホームページ <http://www.toenji.com> 坐禅会法話会の情報 Yahoo ブログ「布袋の袋」

